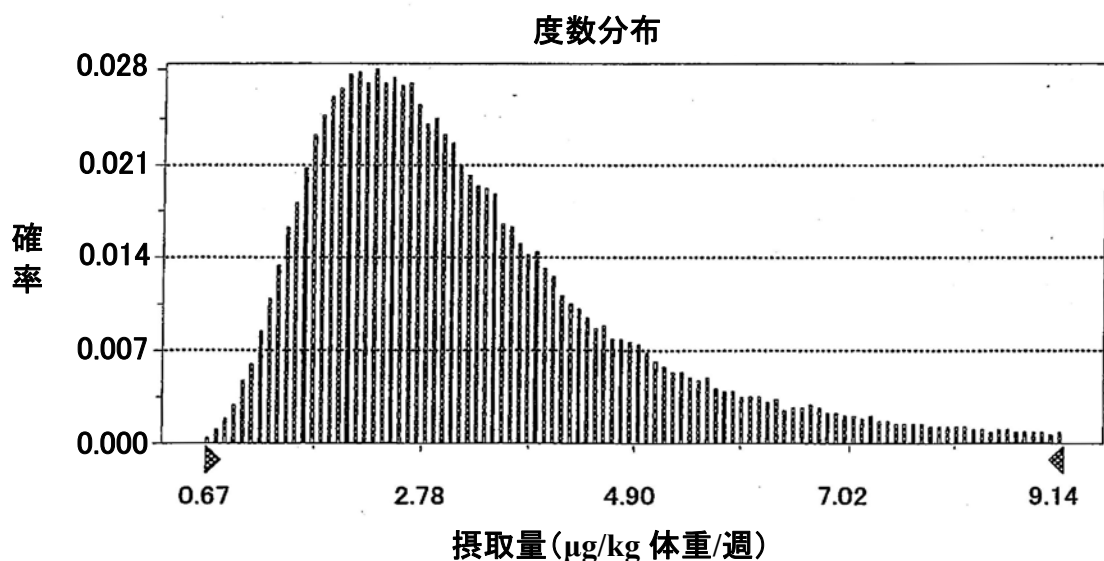


図3 日本人のカドミウム摂取量の分布



※ 日本人のカドミウム曝露量推計に関する研究より引用（文献4-22）

#### 4.3.2.2 日本における汚染地域の一般住民

現在、国内でもっとも曝露が高いと考えられる地域で食品サンプルが収集され、TDS法<sup>8</sup>で曝露量が算定された。同時に陰膳法<sup>9</sup>による調査が行われた。TDS法で求められた結果は、平均値1.15 μg/kg 体重/日、すなわち7日間に換算して8 μg/kg 体重/週となり、JECFAの暫定耐容週間摂取量（PTWI）<sup>10</sup>である7 μg/kg 体重/週を超える結果となった。陰膳法による一日摂取量は、0.44 μg/kg 体重/日となり、陰膳法がTDS法の約半分の結果を示していた。陰膳法では、個人の正確な曝露量を得ることが出来るが、特に魚介類や根菜類を摂取した場合に高い値を示すなど個人内の日間変動が顕立によって大きくなることが知られている（文献4-23）。

#### 4.3.2.3 その他

ほとんどすべての国の一般的な地域における平均カドミウム摂取量は、JECFAのPTWI以下である（表5）。

<sup>8</sup> ここでは、もっともカドミウム曝露が高い地域とそれに隣接する地域で食品13群から530サンプルを採取し、カドミウムの濃度の測定及び摂取量の推定を行っている。

<sup>9</sup> 陰膳法：調査対象者が食べた食事と全く同じものの1日分を食事試料とし、1日の食事に含まれる化学物質の総量を測定することにより、調査対象者が食べた食品に由来する化学物質の摂取量を推定する。ここでは、もっともカドミウム曝露の高い地域の農家女性17名を対象に、平成15年12月中旬に3日の期間で行われ、朝、昼、夕食及び間食の陰膳が作成された。なお、対象者は過去に健康調査に参加した者が選ばれている。

<sup>10</sup> 暫定耐容週間摂取量（Provisional Tolerable Weekly Intake）とは、現時点の最新の科学的知見に照らして、人が一生涯にわたり摂取しても健康に対する有害な影響が現れないと判断される用量を、体重1kg当たり、かつ1週間当たりの摂取量として表示した数値のことである。